

## 2. 未熟児無呼吸発作

早産児は脳の呼吸中枢が未熟なことや気道が柔らかいことが原因で、急に呼吸をとめることがあります。無呼吸発作の時にチアノーゼや徐脈（心拍数が下がること）が見られることもあるため、モニター管理とともに呼吸中枢を刺激する薬や機械による呼吸補助を行います。最近ではネーザルCPAP（シーパップ）やネーザルハイフローなど、赤ちゃんに優しい呼吸補助の機種も増えています。無呼吸発作改善の時期には個人差がありますが、出産予定日ごろには消失することがほとんどです。



マスクによる補助  
ネーザルシーパップ



ネーザルハイフロー

## 3. 慢性肺疾患

人工呼吸は早産児を助けるための治療ですが、高い濃度の酸素や強い圧力がかかることで未熟な肺にダメージを与えることがあります。人工呼吸の他にも子宮内感染や胃食道逆流症によるミルク誤嚥など、さまざまな要因で肺は破壊と修復を繰り返します。ダメージが強い場合や修復力が弱い場合、長期間の呼吸補助が必要となり、この状態を慢性肺疾患と呼びます。多くは出産予定日ごろまでに呼吸補助を中止できますが、一部の赤ちゃんは気管切開手術を行ったり、在宅酸素（酸素をつけたまま退院）を導入して、新しい肺組織が増えるまで成長を待つ必要があります。

- 初めて抱っこした娘はとても小さくて、抱っこするのが怖かったです。（25週、790g出生、現在1歳）
- 周り比べてばかりで小さいとか気にしていたけれど、ゆっくり成長し、今では私の背も越える青年です！不安ばかりで、どこに、誰に相談していいかわからなかった。一番近くに来てくれた、看護師さんに何でも話していました。（27週、1,260g出生、現在19歳）